

日本聖公会

大阪教区報



芦屋聖マルコ教会



尼崎聖ステパノ教会



石橋聖トマス教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
osakakoho2022@gmail.com
発行責任者
総務局長 司祭 柳 時京

+++++ 第524号 2025年4月20日発行 +++++

リトリートを通して

与えられた復活の命との出会い

主教 バルナバ 小林 聡

「アダムにつながる『すべての人が死ぬ』ように、キリストにつながる『すべての人がいのちを得る』のです。」エコリント 15:22

4月12日の主教按手式の準備としてリトリート（黙想）の機会が与えられました。黙想の場所として釜ヶ崎に数日滞在させて頂きました折、宿泊場所として釜ヶ崎芸術大学が運営しているコキールームに泊まりました。その時滞在した部屋は安藤信重さんという方の絵を展示してある部屋でした。コキールームには様々な芸術作品が展示してあり、それぞれの作品には人の生き様が色濃く反映されていて、釜ヶ崎という町の歴史、人の動き、息遣いを感じさせられる場所となっています。

安藤さんはコキールームができた2011年頃から頻繁にコキールームに通われ、2024年に逝去されるまで、多くの作品を残



されました。そして昨年コキールームにて葬儀が行われたのでした。スタッフの方に安藤さんのことが特集されているニュースレターを頂き、安藤さんについての記事を読み、はっと気づかされたことがあります。それは、絵を描きたいから描くというよ

りも、描きなくなる場所をみんなで作って出していくことの大切さということでした。スタッフの方が安藤さんに何度も、絵を描いたり、文字を書くことを勧められたのですが、その度、安藤さんは拒否されていたそうです。しかし段々とスタッフと安

藤さんとの関係が深まってくるスタッフの方は、安藤さんが文字が書けないことを知るようになるのです。そのことに気づくのに何年もかかったとスタッフの方は言われます。私が泊った部屋には安藤さんの絵や、言葉が沢山展示してありました。私が気に入ったのはウルトラマンの絵でした。私は安藤さんが絵や文字を描こうと思われるようになったこと、そんな風に見える人との出会いや場所がここにはあったこと、絵を描きたくなるような場所の大切さを黙想いたしました。

私たちはイエス・キリストにつながり、イエス・キリストの復活のゆえに、死では終わらない命に生きることができています。死は終わりではないことを知っています。わたしは生前の安藤信重さんに会ったことはありません。コキールームのニュースレターを読む限りでは、安藤さんは人に迷惑をかけ、コキールームに出入り禁止寸前までであったそうです。しかし、何かこの方の存在の不思議さ、つながっていることの喜びが関わる人々の中にあつたのでしょうか。文字が書けなかった安藤さんが文字を習い、文字を書こう、絵を描

こうと思えるようなそんな場所がここにはあったのです。今までは自分が、ある時から自分が絵を描けなくなったことを、自分には絵を描く才能がないのだと思いついていたところがありました。しかし、絵を描いたり、歌を歌ったり、詩を書いたり、言葉を綴ることは、もしかしたらそうしたいと思える場所や環境、雰囲気が大切なのではないかと、安藤さんを通して教えられるのです。そうしたいと思える場所の力です。

私たちは、イエス・キリストによって復活の命を生きる者とされています。それは私が今ここに居ることが神さまの喜びであり、みんなの喜びであり、私の喜びであるということなのです。教会は、そのような場所でありたいし、また私たちが生活する街が、一人ひとりにとって心から表現できる場となりたい、そう思うのです。ここに大阪教区の使命があるように思うのです。キリストにつながる安藤さんの復活の命が、私たちの命に聖霊の息吹を注ぎ込んでくださいますように。すべての場所を喜びに変える主イエス・キリストのご復活、おめでとうござります。

(大阪教区主教)

主イエスと皆様に感謝します

主教 アンデレ 磯 晴久

「…シモン・ペトロは、イエスの膝元にひれ伏して、「主よ、私から離れて下さい。私は罪深い人間です。」ルカによる福音書5・8

23歳の時、石橋聖トマス教会から、祈りの内に送り出して頂き、木川田一郎主教から聖職候補生に認可して頂き、聖公会神学院に入学致しました。それから47年、聖職を定年退職する時を迎えました。聖公会神学院のスタッフや先輩・同級生に恵まれ、池袋聖公会の皆さま（連れ合いもこの中にいました）に支えられた3年間でした。

卒業後、大阪聖愛教会、恵我之荘聖マタイ教会（富田林教会との交流）、東豊中聖ミカエル教会、桃山学院大学チャプレン（聖ルシヤ教会・堺聖テモテ教会との交流）、石橋聖トマス教会を経験、まさかの大阪教区主教に選んで頂き、今に至っております。桃山学院、プール学院、聖バルナバ病院、その他、掲げ



るとキリがないくらい色々な方に支えられた47年間でありました。

欠け多き者ですので、47年を振り返った時、ルカ福音書のゲネサレト湖畔でのシモン・ペトロの召命の出来事がまず心に浮かびました。私の洗礼名はアンデレ、ペトロの弟ですので、ペトロの側にいて、やはり同じ思いを抱いていたと思います。私は繰り返して、ゲネサレト湖畔に立ち戻れど、主イエスより言われてきたと感じています。自分勝手になっっていないか、傲慢に

なっていないか、主イエスより召命を受けていることを忘れていないかと言う問いかけです。言い換えると、神さまの大きな愛を頂いて、生かされていることを忘れていないかという問いかけです。

古代インドに、人生を「学生（がくしょう）期」「家住（かじゅう）期」「遊行（ゆうぎょう）期」と4つに分けて考える捉え方がありました。これから、私は「林住」か「遊行」に入っていくのかと思いますが、主イエスからの召命を忘れることなく、しかし、死に向かつて自由になりながら、歩みたいと考えております（感謝の集いで、愛唱聖歌を歌って頂き、生前葬をして頂いたように、感謝です）。

最後に、「感謝の集い」を開いて下さり、まことにありがとうございます。皆さまのお祈りとお支え、忍耐に感謝致します。そして主イエスに感謝します。

（大阪教区 退職主教）



10年間ありがとう！

磯主教退職記念

夕の礼拝と感謝会の報告
司祭 ヤコブ 義平 雅夫

3月20日（木・祝）の午後、川口基督教会でアンデレ磯晴久主教の退職感謝礼拝および感謝会が行われ、聖職・信徒149人が集いました。15時から行われた厳かな夕の礼拝に続き、会館では和やかに感謝会が持たれました。

テーブルには手作りケーキやお菓子類が並べられ、聖歌262と小林司祭のお祈りによって会が始まると、まず柳司祭と原榎寿子さん（石橋聖トマス）から感謝のメッセージがあり、教区からは、信徒からの感謝献金1,939,606円と旅行券が贈呈されました。歓談の後には、主教の弾

くギターに賛美の声を合わせ、大西修主教と任大彬司祭からもメッセージをいただき、小林司祭ご夫妻から磯主教ご夫妻に花束が手渡されました。

晶子さんからは、主教の平日奉仕に同伴して訪れた教会で、主教の仕事が終わるのを待つ時間が信徒の方々とお話できるよい時間だったという



夕の礼拝を終えてみなさんとともに

主教ご夫妻のこれからの歩みの上に、恵みと祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。
（守口聖オーガステイン 教会牧師）

第136(臨時)教区会報告

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

3月16日(大斎節第2主日)

午後3時、大阪教区主教座聖堂川口基督教会三階にて第136(臨時)教区会が召集されました。

教役者議員14人中11人、信徒代議員32人中30人が出席し、磯主教の開会演説に続き、山本多津子会計検査委員から会計検査報告がなされ、諸委員会会計報告が確認された後、議案の審議に移りました。

今教区会の議案は第1号議案の「2024年度日本聖公会大阪教区決算承認の件」、第2号議案の「2024年度日本聖公会大阪教区一般会計収支不足金処理の件」、第3号議案の「宗教法人日本聖公会大阪聖パウロ教会を宗教法人日本聖公会大阪教区に合併することを決議する件」、第4号議案の「基本財産変更の件(大阪聖パウロ教会の売却)」以上4項目で、全項目が承認されました。

審議の後聖歌第562番を歌い心を合わせて主の祈りを唱え、磯晴久主教の祝福をもって午後4時10分に閉会しました。(書記長)

卒業おめでとう!

ヴェロニカ 薦田 久美子

聖職候補生卒業式

ペテロ 金山 将司

去る、3月7日(金)に薦田久美子聖職候補生が、京都のウイリアムス神学館での3年の学びを無事に終え、ご卒業されました。出身教会の大坂聖パウロ教会、これから初めての勤務先となる大阪聖ヨハネ教会の信徒の皆さんをはじめ多くの方が駆けつけ、薦田聖職候補生の卒業をお祝いいたしました。

歩まれる決意を話されました。また送り出す在校生の浅海神学生、ご家族や来賓の方々、教授方が、卒業にあたり薦田聖職候補に励ましと喜びのメッセージを送り、盛況のうちに卒業礼拝と祝会を閉じました。

(広報委員長)

卒業礼拝は、歌とチャントを多くもちいた聖餐式で、磯晴久主教様が説教をなされました。これから卒業する薦田聖職候補のためにご自身の経験を語られ、エールを送られました。

式の後には、祝会が礼拝堂にて開かれ、卒業する薦田聖職候補が神学校で何度も信仰を碎かれてはまた直したことが語られ、これからも精一杯に信仰の道を



薦田聖職候補生を囲んで

自己紹介メッセージ

「えらくいいもの」

聖職候補生 ヴェロニカ 薦田 久美子



「主の平和がありますように3月にウイリアムス神学館を卒業、大阪聖ヨハネ教会の牧師館に居を移させていただきました。4月1日から大阪聖ヨハネ教会、川口基督教会、教区英語礼拝でご奉仕をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、牧師館に運び込んだ本の中に『秘密の花園』と『チップス先生、さようなら』という本があります。神学校の授業で自分のアイデンティティを探る中で心に浮かんだ本です。初めて『秘密の花園』を読んだのは小学校低学年で、『チップス先生』は中学生だったと思いますが、前者は子供心に「世界にはこんなに美しく楽しくて不思議な

ことがあるのか!」と感動し、ずっと私の中の大切な本第一位です。後者は静かに話が流れますが、言葉にできない何かが心に残りました。そして昨年これらを再び読んだところ、受けた印象はとても違っていました。前者は「境遇に、病気に負けない。そして地位の差は関係ない。人と人との関係が全てを変える」と伝えていたと感じました。後者は、宗教の話は出てこないにもかかわらず、英国国教会の香りがしました。妻と子供を亡くし悲嘆に暮れながらも教師として淡々と働き、時にはバカにされ、時には尊敬されるチップス先生の姿があります。まるで牧師のようです。

本日のタイトルは、前者の中で言われる言葉です。私たちの「えらくいいもの」を大切にし、ご奉仕させていただく教会の方々のみならず大阪教区全体、できれば教区を越えて手を取り合い働きたいと思っています。

司祭の書棚から

パウロ・グリーン著 「長崎の歌」

司祭 ダニエル 山野上 素充

NHKの紅白歌合戦に何回となく出演した歌手の藤山一郎さんが歌った「長崎の鐘」という歌があります。子供のころから何回も聞き自分でも歌える歌です。また、小学校の頃に母から聞かされた「この子を残して」と言う本のことにも心に残っていました。昨年の夏に、次女の家族が住んでいる島根県出雲市へ行き、程遠くないところにある「永井隆記念館」を訪れる機会がありました。それぞれ別々の事象と理解していた3つのことが結び付き、永井隆博士の人生を振り返るには、パウロ・グリーン著の「長崎の歌」が一番ふさわしい、と友人から借りた本が今も私の本棚に座っています。

永井隆は島根県出雲の開業医の息子として育ち、長崎大学医学部を優秀な成績で卒業し、大学に残って研究の道を進みます。大病院では、教授が病棟を回る「回診」のお供をするが、教授たちの冷やかかたで傲慢な態度がどれほど患者の心を傷つけ心をくじいているか、母の死が自分をこのように感じやすくしているのか、また「私たちの人生の意味は何だろうか」考えるようになったのです。

永井は、キリスト教徒の祈りを知らずとも思っていて、キリスト教徒の家庭に下宿させてもらい、そこで信仰を得るのです。真理とは何か、学問の中に真理があるのか探し求めていた時でした。

長崎に原爆が投下され、愛する妻は爆死します。自分自身も被爆し、重体であるにも関わらず患者、けが人を治療するために町の人が建ててくれた2畳の仮小屋を「如己堂」と称し「己の如く人を愛する」場所として治療と執筆活動を続けました。そこで記された永井隆博士の数々の文章が「長崎の歌」の中に納められています。著者のグリーン神父が永井隆の著作を日本語で読み、オーストラリアで出版したものを奈良県の高田カトリック教会、登美ヶ丘カトリック教会の方々が訳したものです。

(大阪教区退職司祭)

「三」に「二」のち 彩る祈り〜改正祈禱書への招き

「改正祈禱書 試用版」をご活用ください！

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

聖書日課を含む

・「回心の式」…共同回心、個人の回心と和解

・「共同連願」…「嘆願」から名称変更

・「病者とともにささげる祈り」

・「死に関する諸式」

これまで、アングリカンコミュニティにおける祈禱書の重要性について分かち合っており、現在作業が進められている、改正祈禱書の試用版が徐々にウェブサイトに公開され、冊子で発刊されはじめております。詳しくは、「日本聖公会 礼拝委員会ホームページ」または「祈禱書改正委員会ホームページ」をご参照ください。

現時点での改正祈禱書試用版の発行は、「聖餐式聖書日課」(聖書箇所と詩編表)ならびに「詩編」本文、「教会問答」(そして「感謝聖餐式」、「特禱」(降臨節第1主日〜三位一体主日)、「毎日の祈り」)です。詩編の改正作業ならびに試用版発行につきましましては、日本聖書協会発行の「聖書協会共同訳聖書」をベースにしています。上記に加え、昨年10月開催の主教会で試用が承認された項目は以下のとおりです。

今後、印刷発行のための整備を加えた後、引き続き祈禱書改正委員会のホームページでのweb公開、また各教会・伝道所宛への印刷物発送と順次進められる予定です。祈禱書改正委員会委員長の笹森主教からは「どうか試用版を積極的に用いてください。また、ご意見・ご感想を委員会へお寄せください。また、ようお願い申し上げます。」というメッセージをいただいております。

祈禱書改正委員会が祈りのうちに作業を進めてきた「試用版」が、皆さまの祈りの場で分かち合われ、一人でも多くの方の「LIFE(いのち、

教区婦人会・昇天日礼拝 第101回 総会
日時：2025年5月29日(木)10時30分〜
場所：大阪聖ヨハネ教会
説教者：ヒューム ウイリアム ユーワン司祭
(堺聖テモテ教会牧師)



生活、人生)を共有し、より豊かな「祈り」が紡がれた祈禱書が作り上げられていくことを心から願っています。
(『祈禱書改正二ユース 第7号より一部抜粋』)

連合男子会 修養会

イサク 寒河江 研司

3月8日(土)、守口聖オーガスティン教会を会場として30人の参加で開催された。

「守口ぶどうのいえの働き」と題して、この働きの設立に大変かかわりの深い、山野上素允司祭を講演者としてお迎えした。

山野上司祭と守口復活教会(当時の名称)の出会い、聖職になられる前の1996年で、長年、牧会補助金を受け続けていた復活教会の今後について、教会の人と誰か一緒に考えてくれないかという高野主教の声掛けが、山野上常置委員に向けられたことが始めだった。

山野上常置委員が芦屋聖マルコ教会から守口復活教会へ移ってこられて数年たつてから、聖職志願をされることになり、それから、ご自身の聖職志願と教会の復活プロジェクトが同時進行になった。その後、このプロジェクトは、たくさんのお話し合いの末「ぶどうのいえ」の建設という道を与えられた。

1996年から2005年の「ぶどうのいえ」設立までの中で、「神様は常に人を用いて働きかけられる」ということに気が付かされたとおっしゃって

れたことが心に残っている。

また、神様のご用のためのプロジェクトを行うには、熟慮と一気に進むエネルギーとメンバリーをその気にさせる熱意が必要であると力強く語っておられた。

「守口ぶどうのいえ」は、治療、リハビリを受けられる患者、その家族が滞在できるサポートハウスとして、利用者に寄り添う働きをしている。それが、教会の働きであるということが大切で忘れてはならないと強く思った一日だった。講演会後の夕の祈りで、守口ぶどうのいえの働きのために献金が献げられた。

(連合男子会会長・大阪聖三二教会信徒)



世界祈禱日を共に

ルデヤ 辻 節子

NCC(日本キリスト教協議会)女性委員会が主催する世界祈禱日礼拝が、3月7日(金)午後1時半から日本福音ルーテル大阪教会で行われました。世界祈禱日は、超教派の女性キリスト者が、祈りを通して和解と平和を求め、毎年3月第1金曜日に礼拝を行います。

今年度の式文は南太平洋クック諸島の女性キリスト者が作成し、詩編第139編をもとに「わたしたちはおそろしいほどに、すばらしく造られています」がテーマでした。クック諸島の3人の女性の物語は、神が私たちを知っておられ、いつも共にいてくださり、

私たちは神に造られたかけがえのない存在である、という理解につながるものでした。礼拝メッセージは、日本福音ルーテル豊中教会の秋山仁牧師が担当。独自の文化を持つていたポリネシア人が、マオリ語の禁止によりアイデンティティを失いかけた歴史に触れられ、クック諸島の

抑圧された女性のエピソードを読み解く背景を語ってくださいました。

当日は、大阪キリスト教婦人会連合に属する8教派114人が集まり、聖公会からは22人が参加。献金11万959円は、国内外の支援を必要とする女性の働きのために用いられます。礼拝の最初と最後に波の音が流され、進行役も花の冠やレイをまとうなど、クック諸島をイメージする演出がなされ、お土産に頂いたミルトスの枝のほのかな香りとともに五感が刺激される礼拝でした。教派を越えた信仰の仲間と、豊かな礼拝を共にできたことを感謝します。

(大阪教区婦人会会長、伝道部委員、石橋聖トマス 教会信徒)



【常置】委員報告

1/15 第3回(定例)

I. 諸報告および議事

- ・ 主教按手・就任式準備について協議・確認した。
- ・ 信徒奉事者の認可書を各教会に送付した。
- ・ 主教より、予定・動静・人事案などについて報告を受けた。
- ・ 大倉有紀聖職候補生の執事志願について面接を行うこととした。
- ・ 三局長会議および諸委員会・諸教会の報告を受けた。
- ・ 2025年度諸委員会および構成委員改定案の提示を受け協議した。
- ・ 聖職養成委員会からの提言を受け、神学生認可および奨学金・助成金申請手続きについて確認した。来年度は規程に則って再申請させることとした。
- ・ 2025年度教区礼拝を11月30日(日)に行うこととした。
- ・ 12月会計報告および2024年度決算報告を受けた。教区葬・委託料等により約210万円の支出超過となっていることを確認した。
- ・ 2月16日に臨時常置委員会をリモートで行うことを了承した(聖パウロ教会の宗教法人

(次のページに続く)

大阪教区関係教役者レクイエム

毎月第2水曜日 川口基督教会

5月14日(水) 10:30~

説教者: 金 頭昇 司祭

- 15日 司祭 米村 健治 (1975)
- 24日 伝道師 エメイ 小幡 久能 (1961)
- 29日 司祭 アーネスト・ゴードン・ハチンソン (1973英)
- 30日 宣教師 メーベル・C・バググス (1984英)



6月11日(水) 10:30~

説教者: 聖職候補生 大倉 有紀

- 3日 司祭 ロバート・マルコム・ミルマン (1945加)
- 4日 司祭 オーガスチン 芦沢 光雄 (2002)
- 8日 司祭 チャールズ・フレデリック・ワレン (1899英)
- 10日 司祭 ウイリアム・ペンジェリー・バンコンブ (1942英)
- 11日 司祭 ジョージ・デンプシー (1960英)
- 13日 司祭 ダニエル 植村 信久 (1980)
- 15日 司祭 ステパノ 橋本 節 (1996)
- 16日 司祭 アーウィン・ヘンリー・コレル (1926米)
- 18日 伝道師 マルタ 榎内 晰子 (1946)
- 19日 司祭 ベニヤミン 東 信行 (1943)
- 20日 司祭 牧岡 鉄弥 (1919)
- 22日 司祭 ルイス・パーキンソン・ヒル (1943英)
- 29日 宣教師 エディス・メアリー・バーナウ (1944英)
- 主教 横田 道信 (1946)
- 宣教師 アリス・マリアン・コックス (1949英)
- 30日 司祭 ヨハネ 荒木 久雄 (1988)
- 司祭 パウロ 水谷 博彦 (2008)

常置委員会報告(続き)

格一元化に関する件)。

●長崎原爆記念・戦後80周年礼拝へ、柳司祭・古澤司祭に加え、2名の信徒を教区から派遣することとした(小林被選主教は教区派遣とは別に参加)。

II. その他

●小林被選主教のリトリートの案について報告を受けた。

●事業委員会の規程(案)の作成を法制委員会に要請することとした。

●ロサンゼルスでの山火事被害に対して、大阪教区災害支援基

金から10万円をロサンゼルス教区に送金することとした。

2/13 第4回例(定)

I. 諸報告および議事

●大倉聖職候補生と面談した結果、その執事志願を承認し、執事試験を行うこととした。

●主教より、予定・動静・各教会の礼拝担当教役者の配置・ローテーション等について説明を受け、協議を行った。

●4月1日より新主教就任まで、西原廉太主教(中部教区)が管

以上。

理主教となる旨報告を受けた。

●長崎原爆記念・戦後80周年礼拝には、教区から柳司祭、古澤司祭、木村治美さん(トマス)、木村歩美さん(トマス)を派遣することとした(小林被選主教は別枠で参加)。

●第133(臨時)教区会および第134(臨時)教区会の議事録を承認した。

●第136(臨時)教区会において、常置委員会から2件の議案「宗教法入日本聖公会大阪聖パウロ教会を宗教法入日本聖公会大阪教区に合併すること

を決議する件」および「基本財産変更の件(大阪聖パウロ教会の売却)」を上程することを確認した。

●聖職養成委員会より2名の神学生との面談結果について報告を受けた。

●現役教役者の管理・礼拝協力の場合の交通費は受け入れ教会側が負担することを確認した。

●財務委員会より2024年度決算について報告を受けた。

●一般会計の赤字については「繰越積立金」の取り崩しによって補填することを含めて決算案を承認した。

以上

【局】【会】【議】【報】【告】

3/19 第3回

* 4月12日の主教按手式関連の段取り等について協議を行った。

●海外招待客の対応、前日レセプション、按手式、茶話会について。

●招待客の確認、式文の確認

* 主教按手式関連の最終確認を行った。

●海外招待客の受け入れ段取り、宿泊ホテルの確認、移動の確認、式場準備の確認、レセプション席次の確認等

洗礼

大阪聖愛教会 (3月9日)

ミリアム 原 瑠琉愛

堅信

大阪城南キリスト教会 (2月9日)

ティモシー 趙 学勇
 エステル 松廣 陽菜
 ヨシユア 松廣 正文
 ハンナ 松廣 優子

逝去者

高槻聖マリヤ教会

ベタニアのマリア 竹原 涼子 (1月4日・98歳)

大阪城南キリスト教会

クララ 本田 富久子 (1月11日・84歳)

大阪聖ヨハネ教会

アン 中島 正子 (1月20日・89歳)

浅沼 耕一 (3月11日・72歳)

川口基督教会

ルカ 森 昌彦 (2月8日・96歳)

大阪聖パウロ教会

サラ 富満 美佐子 (2月20日・95歳)

ヨハネ 小池 宣郎 (2月28日・89歳)

守口聖オーガスティン教会

マリヤ 松田 東紀子 (3月7日・82歳)

魂の平安をお祈りします